



懸け橋

練馬区立石神井西中学校
学校だより 第6号
平成28年9月30日
校長 松丸 晴美

海外からの来客のお・も・て・な・し

今月の16日(金)練馬区の友好都市であるオーストラリア・イプスウィッチ市の学校からの訪問団である生徒12名と引率教員3名が来校しました。海外からの生徒を学校に迎えるのは初めての体験で、第一に考えたことは、「6時間の滞在ではあるけれど、日本の中学校や中学生に良い印象をもってほしい」「生徒が他国の生徒との交流を通して、国際親善について考える機会にしたい」ということでした。そのためには事前の準備が何よりも大切と、全校をあげて知恵を出し合って当日のプログラムを練り、準備をしました。オーストラリア国歌「Advance Australia Fair」の練習、英文スピーチの準備、各学級のスクールバディの選出・練習、日本文化体験(浴衣、抹茶)のための着付け練習などなど、短期間の中で、全教職員・生徒の力を結集してその日を迎えました。

生徒は「可愛い」「本当に髪が金色だあ」「大きいなあ」と大興奮し、英語や日本語、ゼスチャーを織り交ぜながら、授業や給食を共にし、昼休みも一緒に校庭でボール遊びや追いかけっこをして交流を楽しみました。昼は、担当生徒の申し出により英語の放送が流れました。最後



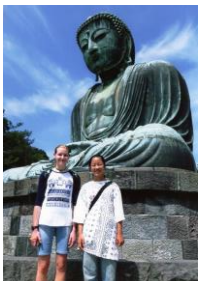
のプログラム、1年生との折り紙交流会では、生徒や教職員が持参してくれたお土産を手

渡し、大変喜ばれました。急なことでお土産が準備できるか心配でしたが、学校だよりを読んだ地域の方々手作り「押し絵」や和風の小物をたくさん寄付して下さい、とても有り難かったです。当日はPTA給食試食会もあり、引率の先生方は保護者と一緒に栄養士からの説明を聞き、「練馬スパゲティ」の試食をしました。日本の「給食」システムが大変優れていると関心されていました。教職員による浴衣着付け体験では、一人一人の写真を撮影し、夜に練馬区主催で行われた「歓迎パーティー」に持参し、プレゼントしました。来校した生徒も先生も、全校をあげての「おもてなし」に大変感激し、感謝されていました。たぶん、「日本の中学生→落ち着いた授業、親切、優しい→日本って素晴らしい国」という印象をもってもらえたと思います。本校の生徒も「とっても楽しかった」「また来てほしい」と喜んでおり、大変良い機会になりました。

ホストファミリーを体験して

9月16日から3日間、オーストラリアのイプスウィッチ高校から留学生のハナが私の家にホームステイしました。

ウエルカム・パーティーでは、お箸を使ったゲームをし、ハナと距離



を縮めることができました。鎌倉では、大仏や神社などを訪れて、日本の文化を伝えることができました。原宿や渋谷では、若者に人気のお店を見たり、クレープや綿あめなどを食べました。一番楽しかったのはハナと二人でプリクラを撮ったことです。食べ物ではしゃぶしゃぶとハイチュウがとても気に入ったようでした。私にとって忘れられない楽しい三日間になりました。



1年D組 川田 梨央

平成 28 年度 第 2 学年 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査結果

教科	A 教科の内容		B 読み解く力に関する内容		A と B の合計	
	石西中	東京都	石西中	東京都	石西中	東京都
国語	75.7%	72.9%	65.4%	59.3%	74.1%	70.7%
社会	63.2%	57.6%	68.1%	58.1%	64.2%	57.7%
数学	64.1%	61.5%	42.3%	36.7%	59.6%	56.4%
理科	61.9%	57.7%	51.1%	45.3%	59.4%	54.8%
英語	63.8%	55.7%	62.9%	54.1%	63.6%	55.4%

教科	学力調査の課題分析	具体的な授業改善策
国語	<p>○教科の内容は 3 ポイント、読み解く内容は 6 ポイント程度、都の平均を上回っている。しかし、教科の内容では「技能」の書く力が不足しており、学年の達成率が 50%をわずかに下回っている。</p> <p>○書く経験を積み、書く力を伸ばす学習指導を展開する必要がある。</p>	<p>○漢字や文法などの基礎・基本の理解をこれまで以上に図っていく。</p> <p>○キーワードを使って要約したり、自分の言葉で説明したりする機会を多く設け、協働学習による学習で理解を深めさせるとともに、書くことへの苦手意識の軽減を図る。</p>
社会	<p>○教科の内容は 5.6 ポイント、読み解く力に関する内容は 10 ポイント都の平均を上回っている。話し合いを多く授業で取り入れているのが、このような数字につながったと感じている。一方で、学習の基本となる基礎学力の定着が課題である。</p>	<p>○授業内で、特に重要語句の理解を深められる工夫をする。</p> <p>○家庭での復習、基礎学力の定着を図るために小テストや定期考査の振り返りをより充実させる。</p>
数学	<p>○教科の内容及び読み解く力に関する内容ともに、5~6 ポイント程度上回っている。内容では「技能」「知識・理解」の分野で、都の平均を 2~3 ポイント上回るが、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」の分野では都の平均をわずかに上回る。</p> <p>○興味・関心をもたせる授業の展開と、思考力・表現力を伸ばす学習指導を展開する必要がある。</p>	<p>○基礎・基本を大切にし、一人一人の生徒が意欲的に取り組める指導を行う。</p> <p>○実生活に即した教材を取り上げることにより、より具体的な問題として理解を深めさせる。</p> <p>○ワークなどを活用し、反復練習の重要性に気づかせる。</p> <p>○発表やグループ学習を通して、思考・判断・表現を伸ばす学習指導を行う。</p>
理科	<p>○教科の内容が 4.2 ポイント、読み解く力に関する内容が 5.8 ポイント都の平均を上回っている。観点別では、読み解く力の取り出す力は 11.7 ポイント上回っており満足いくものだが、教科の内容の技能だけは 0.4 ポイント下回っていた。</p>	<p>○これまで以上に実験・観察の時間を重視して、注意事項を十分に把握し、実験器具の操作を行う。また、その結果を表やグラフにまとめることで技能を伸ばす学習指導を展開する必要がある。</p>
英語	<p>○教科の内容が 8.1%、読み解く力に関する内容が 8.8%、都の平均を上回っている。</p> <p>○「外国語表現」の観点では都の平均を 10.1%上回っているものの、学年の達成率が 50%をわずかに下回っている。</p>	<p>○日々の授業においても、自分の意見を述べたり、他の生徒の意見を聞いたりする時間を確保するようにする。</p> <p>○既習の知識を活用した、発展的な表現活用を積極的に授業に取り入れていく必要がある。</p>

平成 28 年度 第 3 学年 全国学力・学習状況調査結果および練馬区学力調査結果

全国学力・学習状況調査結果					練馬区学力調査結果		
平均 正答率	国語A 主として知識	国語B 主として活用	数学A 主として知識	数学B 主として活用	社会	理科	英語
本校	78.3%	67.8%	67.3%	49.2%	53.1%	52.2%	68.3%
都・区平均	都 76.9%	都 68.6%	都 63.5%	都 45.6%	区 50.8%	区 47.8%	区 66.0%
全国平均	75.6%	66.5%	62.2%	44.1%	55.2%	53.8%	61.8%

教科	学力調査の課題分析	具体的な授業改善策
国語	○全国学力調査では、国語Aは全国・都平均を上回ったが、国語Bは全国を上回ったものの、都平均には至らなかった。知識を活用する能力をつけるのが課題である。	○読解力を向上させるため、接続語や指示語の働きを理解させ、要約したり自分の考えをまとめたりする活動を取り入れていく。協働学習による話し合い活動を随時行っていく。
社会	○基礎的な理解力は高く、よく勉強はできている。しかしそれを応用する力、表現力にまだまだ課題が見られる。特に文章で答える問題については、最初からやらなかったり、諦めている生徒が多いようである。興味・関心を高め、意欲的に学べる環境づくり、文章で表現力を育成できるように指導することが課題である。	○テストなどを使って文章などで答える学習を繰り返していく。 ○アクティブラーニングなどの授業を取り入れ、活動の中で学習する機会を増やす。 ○基礎の反復学習をおこなう。
数学	○全国学力調査において、知識・活用と共に全国・都平均を4～5ポイント上回り、概ね良好と考えられる。内容では「資料の活用」についての理解度・活用度がやや低い。また記述式の問題に対して、取り組もうとしない生徒が出ているのが課題である。	○「資料の活用」については、実生活に基づく題材を設定し、反復練習を行っていくことが必要である。また、成就感を体験できる授業を展開し、前向きな姿勢を育てていく。
理科	○練馬区学力調査では、区の平均正答率を上回っていて、全体としてはおおむね良好である。しかし全国の平均をわずかに下回ったのでさらに改善が必要である。領域別に見ると、「動物の生活と生物の変遷」と「気象とその変化」については全国の平均を上回ったが「化学変化と原子・分子」と「電流とその変化」については下回った。	○「化学変化と原子・分子」と「電流とその変化」については、観察・実験をより重視し、結果から規則性や法則性を見いださせる授業の回数をさらに増やす。また、日常生活と関連性のある問題を解かせ、学習内容がどのように活用されるのかを説明する。
英語	○全ての領域や観点について目標値を上回っているが、「書くこと」、「読むこと」の領域で、校内正答率が区で設定した目標値に対し、やや低めの項目がそれぞれ2カ所あった。 ○この項目における問題の内容は、「語彙の知識・理解」、「場面に応じて書く英作文」、「さまざまな英文の読み取り」、「長文の読み取り」である。	○「読み取り」や「書くこと」については、苦手意識がある生徒が多いため、スモールステップを組んで繰り返し取り組む機会を作る。授業の初めの活動で既習の語句や語法の復習をしたり、単元の最後にまとめの活動を設けること総合的な英語力を育成していく。

3年生のいいところ (修学旅行を終えて)



新しいクラスにもまだ慣れていない4月中旬、修学旅行実行委員の募集を行いました。各クラスから4人ずつ募ったところ、どのクラスからも立候補で実行委員が決まりました。本番は9月7日～11日。夏休みを除くと、あと約3ヶ月…。その間に運動会と2回の定期テストがある…。何だか慌ただしいことになりそうだと不安を抱えつつ、24名の実行委員と怒涛の修学旅行準備が始まりました。実行委員長、副実行委員長、クラス代表などの役職決めもスムーズに進み、「やる気があるな～」と感心しました。実際は、修学旅行担当の宮内(貞)先生と私にガミガミ言われる場面もありましたが、今振り返ってみると色んなことで忙しい中よく頑張ってくれたと本当に思います。

各クラス行動班が決まり教室の座席もその班になると、いよいよ修学旅行を身近に感じてきました。班行動のテーマ決め、見学地決め、コース決めなどを進めていくと、スムーズに決まっていく班、盛り上がっているけれど計画は進まない班、ただただ悩んでいる班など、班ごとのカラーがでてきました。それはどのクラスでも。担任としては、間に合うの!?!とハラハラしつつ、そんなみんなを見ているのがほほ笑ましかったです。出来る限りみんなの力で決めてほしいと思いあまりアドバイスはせず、しかしプレッシャーはかけつつ、心の中で「がんばればがんばれ。」とっていました。



なんだかんだ事前学習は進み、夏休み前には全ての行動やルールが決まりまし

た。2学期が始まったら登校日は4日間、その次の日から修学旅行。誰もがすごい予定だと思いながら、いざ本番。東京駅に集合し、出発式。整列の練習はしていたけれど、あの速やかな集合体形とピタッと静かになった雰囲気、こっちが緊張してしまいました。さすが3年生。賑やかな新幹線が新大阪に着き、バスで法隆寺へ。週間予報ではずっと雨マークだったはずなのに、まさかの猛暑。(このお陰で私は正式に晴れ女に)汗をダラダラかきながら法隆寺を見学し、その後涼しいバスに乗り込む速さと言ったらそれは見事でした。次はいよいよ奈良公園の班行動。どうなるかと心配していましたが、みんなとても真剣に班行動をしていました。翌日の京都行動、最終日のタクシー行動とまとめて振り返ってみると、班員とはぐれた! 予定時間に間に合わない! 物を落とした! なくした! 困った! など色々ありましたが、総合的にみると大きな事件や事故はなく良く頑張ったと思います。失敗やハプニングがあった班も、そこから学ぶことも多かったはず。私が感心したのは、前日の失敗を翌日に取り戻そうとする姿勢があること。すごく大切なことだと思いました。



全体的に褒めすぎかもしれませんが、課題は自分たちが1番良く分かっているはずなので。私にとっては、みんなの力を感じ、今後さらに良い集団になっていこうと思える修学旅行でした。この号が出るのは10月。もう、3年生の半分が終わってしまいました。卒業までの登校日は10月から数えるとあと110日。ここからは、受験、受験、受験。そんな雰囲気になっていくのでしょうか。ピリピリした気持ちも、イライラも、不安も、学校にいるとなんか和らぐ。そんな温かさを大切に過ごしていきたいです。